

長野赤十字病院の新病院建設に関する請願

令和2年9月3日

長野市議会議員 小泉 栄正 様

請願者 長野市若里五丁目22番1号
 長野赤十字病院
 院長 和田 秀七

紹介議員 三井 経光 松本 表 登
 西 波 利 一 堀 入 孝

若林 祥
 近藤 尚里
 野々村 博美
 中内 英

(請願趣旨)

日頃より長野赤十字病院の運営に関して、ご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、新病院の建設については、若里多目的広場を新病院の建設予定地として、ご承諾を賜り、現在、当院では、令和7年(2025年)の新病院建設着工に向け、「新病院基本構想」を具体化する「新病院基本計画」の策定を進めています。

当院は、昭和56年(1981年)から39年間にわたり、「断らない救急」(2019年の救急車応需率は99.38%)と「救急診療の質の向上」に努め、三次救急を担う北信地域唯一の救命救急センターとして、24時間365日、重篤患者への高度な救急診療を実践し、「地域医療の砦」となっています。また、県内唯一の基幹災害拠点病院として、DMATや救護班を編成するとともに、救援物資を備蓄しつつ、訓練を実施し、常に災害に対応できる体制を備えています。さらに、北信地域唯一のDPC特定病院として大学病院に準じた機能を持ち、「地域医療支援病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「地域周産期母子医療センター」などの重要な役割も担っており、今後も引き続きその責務を果たしていく所存であります。

その一方、近年、地球環境の変化などにより豪雨災害の発生は確実に増えており、さらに大規模地震発生の恐れもあります。また、今回の新型コロナウイルス感染症の発生とその感染拡大は、経済、社会に甚大な影響を及ぼしました。既存の医療施設における感染症パンデミックへの対応は、極めて脆弱であり、今後新たに発生しうるパンデミックに適切に対応できる医療体制及び医療設備が、市町村を越えた広域で、整備されていく必要があります。また、少子高齢化社会にも適切に対応し、地域住民の暮らしをサポートする機能の充実が医療機関には求められます。

以上の状況を鑑み、当院が、地域に対してその責務を果たしていくために、新病院が持つべき機能として以下のことを検討してまいります。

- 1 台風・豪雨、大規模地震などの自然災害への備えと、発生時に的確に対応できる機能
- 2 感染症のパンデミック発生時、重症者・基礎疾患のある患者等へ高度医療を安全に提供できる機能
- 3 災害・感染症パンデミック時に、多数の被災者や患者発生に柔軟に対応できる機能
- 4 地域で安心して、出産・子育てができる機能
- 5 地域包括ケアシステムの体制充実に寄与する機能

「いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という日本赤十字社の使命並びに「地域に質の高い医療を提供する」という長野赤十字病院の理念の下、「地域住民のいのちと健康を守る」最後の砦として、地域の将来を見据え、行政及び医師会等と連携しながら、新病院の建設に取り組んでまいります。

しかしながら、近年の医療費抑制政策や新型コロナウイルス感染症の影響により、病院経営は非常に厳しい状況となっており、新病院建設には多額の費用が見込まれることから、建設資金の助成等をご検討いただきたく、次の事項についてお願いいたします。

(請願事項)

- 1 「新病院基本計画」の策定に向けた提案・助言等を市関係部局からいただけるよう、働きかけていただきたい。
- 2 新病院の建設を財政面から支援いただきたい。